

立てた。この企画には、文京区内の私立大和郷幼稚園の向山陽子先生、フレーベル館のご後援をいただいた。

6. 企画・運営・検討に要した会議

事業が3年目を迎え、教育実践や研究発表だけでなく、公開イベントや他機関・他事業との連携など事業活動が多岐にわたるようになった。そこで、会議の趣旨を再確認し、24年度より新たにコア会議を設置した。また、学会発表や成果報告に向けての研究会を定期的に開催した。

1) ECCELL 運営会議

①12/05/21 (月) ②12/09/20 (木)

2) ECCELL 全体ミーティング

①12/04/25 (水) ②12/05/28 (月) ③12/06/25 (月) ④12/09/10 (月) ⑤12/10/29 (月)
⑥12/11/26 (月) ⑦12/12/17 (月) ⑧13/01/28 (月) ⑨13/03 (未定)

3) ECCELL コア会議

①12/04/02 (月) ②12/04/19 (木) ③12/05/10 (木) ④12/05/21 (木) ⑤12/06/13 (水)
⑥12/06/28 (木) ⑦12/07/12 (木) ⑧12/08/08 (水) ⑨12/09/10 (月) ⑩12/09/27 (木)
⑪12/10/11 (木) ⑫12/11/05 (月) ⑬12/11/26 (月) ⑭13/01/07 (月)

4) ECCELL 研究会

①12/10/25 (木) ②12/11/15 (木) ③12/12/13 (木) ④13/01/07 (月)

第3章 まとめと課題

欧米主要国では、乳幼児教育へのテコ入れによる経済効果を期して、20世紀末からECEC(Early childhood education and care)の質の向上を国家施策とし、0歳児から成人までの長期的視野に立った生涯教育を推進している。子ども・子育て新システムは廃案になったが、保育改革の名のもとに乳幼児教育(保育)施設の最低基準を低め、先進国中もっともリカレント学生率の少ない大学教育(つまり、高校出たての人ばかりの高等教育)を進めている我が国の中で、「乳幼児教育」と「生涯学習」の両方をキーワードに含んでいる私たちのプロジェクトはその流れに抗い、「子ども」を幸せにすることと、大人が学び続けることが矛盾しない社会を構想している。

6か年のプロジェクトの3年目、前半を終えることになる。社会人プログラムや学部授業、附属園との協働、公開シンポジウム等を通じて、私たちの「子ども学」研究と実践は続いているが、COSMOSやハーフミラーなどの大学関連の外部組織とコラボしたり、お茶大の保育の歴史や倉橋惣三の言葉を伝えて文京区の人たちにふと立ち止まってもらう企画も実現した（文京区子育てフェスティバル）りもした。目的や方法を異にする研究組織どうしが、包括的な目標において共通性を見出し協働することで、何か面白いことになりそうだという直観を信じて行動してみる。そんな人から人へ、組織から組織への輪が広まっている感がある。これは無計画性とは異なるだろう。むしろOECD掲げるところのいわゆるキーコンピテンシーそのものの体現ともいえるのではないか。その評価は今後の課題であるが、それは次のアクションを起こせるかどうかにもかかっているだろう。次年度からは、社会人プログラムが幼稚園教諭免許上進講座としても公開される予定である。